

# 甲状腺センター

甲状腺センター長兼検査科部長  
兼糖尿病・内分泌代謝内科主任部長

高野 徹

## 「甲状腺センター」開設



▶ 甲状腺超音波検査の様子（高野医師）

2019年9月に甲状腺センターが開設されました。甲状腺はのどにある10g程度の甲状腺ホルモンというホルモンを産生する小さな臓器ですが、様々な病気が比較的高頻度で発生することが知られています。代表的なのは甲状腺ホルモンが不足してしまうバセドウ病、逆にホルモンが足りなくなる橋本病です。これらの病気は特に30代以降の女性に頻発します。甲状腺ホルモンは全身に作用しますので様々な症状を呈します。また、甲状腺ではがんも高頻度に見つかります。しかし、超音波検査で見つかるような小さな甲状腺がんは30代以降200人に1人程度にあり、そのほとんどは一生無害で経過するため、危険なものともうでないものの鑑別が非常に重要になってきます。当センターでは、甲状腺専門医が診療を担当しており、甲状腺腫瘍に対する超音波ガイド下穿刺吸引細胞診や甲状腺の核医学検査・治療など、甲状腺疾患の特殊な検査・治療を実施することが可能です。バセドウ病・橋本病などの甲状腺ホルモン異常の診断・治療から甲状腺がんの診断まで甲状腺の異常に伴う様々な病態について幅広く対応しています。バセドウ病に複視や視力障害等眼症状を伴っている症例や、妊娠した時に甲状腺の病気が見つかった、あるいは甲状腺の病気があるけれども妊娠を考えている症例の診断・治療にも対応しています。

甲状腺の病気はいずれも直ちに命を取られるような状態になることは稀ですが、一生涯の管理を必要とするものが多いことが知られています。このような病気の場合、「病気を治す」ということだけでなく、いかに病気と診断された方々の生涯にわたる負担を減らしていくか、ということが課題となります。従来の医療は、早期診断・早期治療が金科玉条とさ

れてきました。ところが、甲状腺の病気に関しては、このようなやりかたがかえって害をもたらしてしまう場合（過剰診断・過剰治療と呼びます）があることが最近知られるようになってきました。

その典型的な事件が原発事故対応として福島県で行われてきた甲状腺超音波検査の学校検診です。既に300人近い子供や若者が甲状腺がんと診断されていますが、このほとんどが診断されなければ一生治療の必要のなかったはずのガンだと考えられています。検査でたまたま見つけてしまったがゆえに、子供たちはガン患者のレッテルを貼られて手術を受けざるを得ない状況に追い込まれてしまったのです。私自身もこの件には深く関与しましたが、そのことが現在の甲状腺疾患の診療姿勢の見直しにつながっています。

当センターではこのような「見つけなくても良かったはずのガン」の経過観察についても相談を受け付けており、国内では対応できる専門家が限られていることから、遠方から来院されている方もおられます。その他の病気についても、検査・治療はできるだけシンプルで負担の少ないものを優先したいと考えています。また地域のかかりつけ医から紹介を受けた場合は、当センターで診断や治療方針を決定し、病状が安定した段階でかかりつけ医への逆紹介をするなど、最終的に患者様の通院負担を最低限にできるように診療方針をとらせていただいています。

**ご寄附のお願い**  
りんくう総合医療センター

りんくう総合医療センターでは、皆様に安全で安心な生活をお過ごしいただけるよう地域の医療を守っています。当院の運営にご理解いただき、ご寄附をお寄せくださいますようお願い申し上げます。詳しくは当院ホームページをご覧ください。

QRコード



<http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/about/donation/>